

55日ぶりの二上山登山口

2022年11月8日(火)晴

二上山登山口の當麻大池から中腹にある祐泉寺までゆっくりと歩いた。両膝にはサポーターを巻き、ダブルストックで、慎重に一步一步確かめながら進んだ。

9月20日に“両膝人工関節置換手術”を受けて、この日が術後49日目だった。

手術後すぐに始まったリハビリ

手術は睡眠剤で眠らされている間に終わっており、翌日からリハビリが始まった。担当するのは若い男女の理学療法士が交替で。

リハビリ各メニューの目的、目標、日々の回数など分かりやすく説明され、主として膝の屈伸、脚の筋肉の鍛錬そして歩行訓練。

患者のためを思っている事だろうが、手加減のない訓練だ。

リハビリに携わる人たちの辛抱強さ

毎日リハビリを受ける立場になって、改めてこの仕事に携わる人たちの粘り強さ、辛抱強さに感心した。ともすれば面倒くさがり、わがままな老人に、すぐには効果の出ない小さな努力とその積み重ねこそが大切なのだと実践を通じて教えてくれる。

看護、介護、リハビリなどは保育、家事なども含めて“ケア労働”と呼ばれており、ストレスが多く、また高齢化のすすむ社会でますます必要とされていると思う。

10月4日退院、自宅での療養に

看護、リハビリの効果は徐々にあらわれ、歩行器から杖へ、そして杖なしでの200m歩行と階段の昇降などへと順調に進んだ。

術後9日目で退院許可が出、10月4日退院して自宅での療養に移った。この時点では回復し、山歩きが

できるのはそう遠くないとの観想をもったが、そう簡単ではなかった。両膝の14~15cmの切開部分は、山中に棲むシーボルトミミズを連想させる赤黒さは消えつつあるが、時々痛みを伴って「回復途上」を実感させた。

懐かしい秋の花々

さて、話を二上山登山口に戻そう。當麻大池から見る二上山は、秋の深まりを実感させ、山口神社境内のコウヤボウキの群れは久々に逢えた知己を感じさせた。

大龍寺近くの竹藪では積み重なる落ち葉の中でキチジョウソウが幾株も咲いていた。鮮やかなグリーン

の細かい葉の間から、紅紫色の花茎を伸ばし、開いた淡紫色の花びらから白い雄しべが突き出ている。今日はいいことがあるようだ。

近々、ロープウェイを使って葛城山の秋の花々に逢いに行こう。

↑ 山口神社境内のコウヤボウキ



↑ 大龍寺近くのキチジョウソウ

好評をいただいている「四季の富士」カレンダー 私の双子の弟・松尾治のライフワーク「山々からの富士」の来年度カレンダーが好評をいただいています。ご希望の方はご連絡下さい。松尾忠

続・続・二上山に咲く花々 39

ナベワリ (鍋破) ビャクブ科ナベワリ属

写真は故澤木仁さん

ナベワリは単子葉の多年生植物。祐泉寺への道の傍らにあった小さな群落は、無くなってしまい、谷沿いなどで思いかけず出逢う貴重な植物。

茎は、地上からまっすぐに伸びて、途中から少し傾きます。高さは 30~60 cm。茎の節ごとにハート形の葉を出し、その葉のわきから、花茎を水平に伸ばして、4~5月頃、緑色の変った形の花を下向きに咲かせます。

色も色だし、葉の下に隠れるように咲くので目立ちませんが、花弁は4枚、そのうちの一枚が大きくなるので、非対称の花になります。写真でオレンジ色のが葯(花粉の袋)。希少種なので大切に。

有毒植物。舐めると頭が割れるくらい、くらくらするようで、「舐め割り」から「鍋割り」に転訛したと言うのが語源の有力説。



続・続・二上山に咲く花々 40

ヒヨドリバナ (鶉花)

キク科ヒヨドリバナ属

写真は故澤木仁さん

8月~10月、ヒヨドリが人里に出てきて、鳴き始める頃に開花すると言うのでこの名に。二上山の至る所で咲いています。

開花時期も重なる、同じキク科のフジバカマと似ていますが、フジバカマの葉が3裂するのに比べて、この種の葉は裂けません。

旅をする蝶・アサギマダラはこの花にも訪れます。

高さ 1~2mの多年草。茎は直立して、上部で枝分かれし、その先に白または淡紫色の小さな花を密集して咲かせます。花には短毛があります。

この植物は薬草として利用されているようですが、全草そして蜜にも毒を含んでおり、口に含むなどはしないように。

ちなみに、アサギマダラはこうした毒成分を体内に蓄えて、捕食者から身を守っているとされています。

実には綿毛が付き、風に運ばれて繁殖域をひろげます。

